

# 田中康夫

今月の憂いゴト

参議院選挙の結果から、モハメド・アリの葬儀、東京都のあり方、EUの行く末まで。

惜しくも当選を逃した参議院選挙を終え、やややすれた声だが、疲れも見せず、浅田氏との対談を始めた田中氏。東京・日本橋にある「RORI Nihonbashi Hostel and Kitchen」で、参院選を振り返りながら、東京都知事選、そして、国民投票で離脱派が勝ったイギリスとEUの行く末を語り合った。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

# 浅田彰

# 憂い

# 呆国憂

2 VOLUME 74

## 「護憲、改憲の二項対立ではなく、 加憲」という道を探るべきか？」

浅田 参議院選挙では定員6人の東京選挙区で田中さんは惜しくも7位。残念な結果だったけど、とにかくお疲れさま。

田中 国政政党おさか維新の会は、地域主権の確立、そして中央集権と既得権益の打破を目指す点では僕とは同じベクトルで、目指す頂が一緒であれば、それぞれ手法は違っていい。でも、創業者の橋下徹が顧問に退き、集団指導体制に移行して以降はとりわけ、安倍政権の補完勢力だと報じられてきて、しかもゲルマン民族の大移動どころかフン族の侵入みたいに、首都圏で「大阪の改革」を押しつけようとしている勢力だと思われてしまった面は否めないね。コロナ言うことが変わる三百代言な「極右政党」の公認を得るのかと、著名な人物からメールをもらったよ(苦笑)。

大阪府知事で代表の松井一郎は「家族の形はこうあるべきと価値観を押しつける自民党の改憲草案に僕は反対」と選挙期間中の6月26日にも秋葉原で明言し、5月18日の党首討論で首相と向き合った共同代表の片山虎之助も、「緊急事態条項の制定に反対。憲法9条改正はやるべきでない。今の憲法のように残さないといけない」とわずかに4分の持ち時間の中で述べた。

なのに、憲法の条項を問わず、憲法改正自体を否定しない政党を「改憲勢力」と分類する日本のマスメディアは、公明党と並んで「9条改憲」を狙うかのごとき、不毛な二元論でレッテル貼りをし続けるから困ったものだ。その一方で「9条改憲」を公言する民進党の国会議員は優に2桁台に上るのに、今回も「護憲勢力」として括って

いたのだから、イヤイヤ。

実は「改憲派」の読売新聞が2004年に行った世論調査では「憲法改正に賛成」が65パーセントに達し、「護憲派」の毎日新聞の世論調査でも2006年と2012年には同じく65パーセントに達していた。それが、今年に入って読売の調査でも、憲法改正反対が50パーセントと逆転した。「国民の権利と国家の義務」を定めるのが憲法なのに、「国民の義務と国家の権利」へと改憲ならぬ「壊憲」するのが自民党の復古調な改憲草案だと、多くの国民が不安や不信を抱いているんだよ。国会の3分の2を占めたのは「憲法改正自体は否定しない勢力」であって、急進的な「9条壊憲勢力」ではないのに、記者クラブメディアは分かかってない。

自民党以外の現存する国政政党で唯一、おさか維新の会は憲法改正案を示しているけど、それは以下の3項目のみ。「乳幼児から大学までの教育完全無償化」「統治機構改革」「憲法裁判所の設置」。

憲法26条の第2項には、「義務教育は、これを無償とする」と記されている。ならば、少子化対策の切り札として「義務」の2文字を削除しよう。北欧諸国の憲法みたいな話なのに、憲法学者の木村草太は「法律で規定すべき事柄だ」と発言して、だったら第2項自体が憲法にふさわしくないんですかと失笑を買っていたけど。善くも悪くも民主党政権が掲げた「チルドレンフアースト」は「政権交代」で全面的に変わったわけで、時の権力の「新しい判断」で



「教育を受ける権利」が損なわれないように、国民の義務を定める法律でなく、国家の義務を定める憲法で明確に規定しよう。浅田 安倍自民党が9条「壊憲」を狙っている以上、「護憲」で対抗するって政治判断もあるけど、今回はその対立軸が機能しなかった。選挙後に天皇の生前退位の意向が報道されたけど、むしろ原理的・長期的には皇室典範も含め1条を改憲して天皇制を廃止すべきだって考え方もあって、共産党はもともとそういう立場でしょう。他方、おさか維新の会と同じく、公明党も環境権なんかを書き込む「加憲」の立場で、9条

「壊憲」には反対。こうなってくると、憲法を守るか変えるかより、いかに変えるかを争点にしたほうが有効だって考え方も確かに成り立つ。安倍自民党は、いずれ公明党の代わり

に維新と組んで9条「壊憲」を、と考えた節があるけど、むしろ公明と維新が組んで9条「壊憲」に反対したっていいわけよ。公明党を支持する創価学会では平和主義堅持の声が圧倒的で、その立場から街頭で公明党の自民党追従を批判する若い学会員もいたから。

田中 おっしゃるとおり。「国民の義務」を強要しようとしている「権力」に、「護憲」という念仏を唱え続けても防戦一方だった過程を冷静冷静に直視すれば、憲法9条の理念をより実践的に護り育み、専守防衛に徹する上でも、「平和の刃」を具体的に突き付けてこそ、「国民の義務」を羅列した生煮え草案などトンデモないと知らしめるんだ

よ。とまれ、老保一元化の「宅幼老所」やフランス流「保育ママ」、人が人を助ける「平和的予備役」といった7つの公約を記したパンフレットを毎朝6時半から駅頭で配り、街頭演説の動画と文字起こしをHPにアップして、僕が助手席でマイクを握って遊説しながら移動していく車内の様子もツイキャスで生配信したガラス張りの選挙戦。大きな労働組合や上場企業や宗教団体の動員とは無縁だったけど、都心部、周辺部、下町、山の手に関係なく、立ち止まって僕の話延々30分あまりも聴いてくれた有権者には感謝しているよ。

浅田 福島では現職の法務大臣の岩城光英が落選、他の東北各県でもTTPP反対が強くて自民党は苦戦した。基地問題を抱える沖縄でも現職の沖縄・北方担当大臣の島尻安伊子が落選した。具体的な争点がある選挙区では自民党がかなり負けている。むしろ、アベノミクスの限界を批判しきれず、「改憲か護憲か」という抽象論で勝負しようとした都市部では、野党は与党に勝てなかった。それにしても、東京選挙区で民進党の小川敏夫元法相が接戦の末に田中さんを抑えて6位当選したのはともかく、自民党の朝日健太郎が5位って結果には驚いた。元バレーボール選手っていうけど、活躍したのは大昔のこと。具体的な政策ヴィジョンがあると思えないし……。

田中 まあ、それも「民度」の反映だから、悩ましいねえ。  
浅田 スポーツ選手がダメだってわけじゃない。先日亡くなったモハメド・アリともなると、そのへんの政治家よりはるかに大きな力を発揮した。キング牧師に比べて過激すぎると言われたマルコムXのネーション・オブ・イスラムの影響下で、キャシア

ス・クレイという「奴隷の名前」を捨てモハメド・アリになった黒人チャンピオンは、ヴェトナム戦争に反対して徴兵を拒否、最初は5年の刑を宣告され、チャンピオン・ベルトや試合出場資格を剥奪されたにもかかわらず、後に最高裁で無罪判決を勝ち取り、3年半もの空白を経てチャンピオンに返り咲く。そんなアリが自分のモノマネをしてユダヤ人のお笑い芸人ビリー・クリスタルを弟分としてかわいがってたつてのは、なかなかいい話で、アリの葬儀でのクリスタルの弔辞はビル・クリントンの弔辞が霞んじやうくらい感動的だった。実際、黒人米語を駆使したアリの独特な語り口は、後のラップやヒップホップにも大きな影響を与えてる。そんなアリがパーキンソン病で行動や発言の自由を失いながら「物言わぬ平和の使者」となつたつてところがまた感動的。アントニオ猪木も頑張つてはいるけど、比較にならないな。ましてや最近のスポーツ出身議員なんて……。

田中 東京オリンピック・パラリンピックの「宴の後」を秋に迎える2020年にはコミュニティの希薄な首都・東京も人口が減少し、限界集落化へ突入する。五輪開催という「大文字」の目標も結構だけど、人が人をお世話して初めて成り立つ福祉・医療・教育という「小文字」の地に足を付けた変革を、脱ハコモノ行政の視点でどうするのか。その僕の主張を理解した人もいれば、現実に直面しないとなかなか想像できない人もいたつてことだね。

### どうなる都知事選？ 東京都のあり方を問う。

浅田 外添要一東京都知事が公費の私的流用を批判されて辞任に追い込まれた。確か

に公私混同はよくない。ただ、政治資金規正法がザル法などで違法とまでは言えないし、正月に家族で木更津の「龍宮城スパホテル三日月」に泊まった宿泊費を公費で払つたとか（苦笑）、善かれ悪しかれ実にセコイ話。前任者の猪瀬直樹が徳洲会から5000万円を受け取つた問題で辞任に追い込まれたのとは桁が違う。その意味で、知事選で彼を担いだ自民党・公明党がすぐに辞任させることはないかと判断したのも不思議じゃないんだけど、沸騰する世論に押されて辞任路線に舵を切らざるをえなくなつた。醜態だね。むろん外添を擁護したくないよ。ただ、ここまで騒ぐような問題だったのか。むしろ、東京オリンピック招致にまつわる巨額の黒いカネの問題とか、またしても膨張し始めたオリンピック予算の問題とか、本当に大きな問題から目をそらせる結果になつたとしたら、そのほうがまずいんじゃないか。

#### 田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。www.nippon-dream.com

かりだった。自民党・公明党の担ぐ増田寛也が岩手県知事時代に借金を倍増させたことは、長野県知事時代に財政再建を成し遂げた田中さんが参議院に転じて2008年の予算委員会での質疑で指摘したとおり。ところが民進党の一部には増田に相乗りしようつて声もあつたつていうんだから！増田の先手をとつて出馬表明した小池百合子の勝負師としての勘は悪くないんで、民進党はあえて彼女を応援したほうがよかつたくらい。結局、鳥越俊太郎が野党統一候補になつたけど、あれは筑紫哲也を凡庸にしたような人でしょう。

東京都の、そして日本の「民度」がもっと高けりや、田中さんが都知事になつてオリンピックを返上する、あるいは近年のオリンピックの肥大化を抜本的に変えるような形で開催するつてのが、最も正しい選択だと思つて。参院選でも田中さんが都知事候補だと思つてた人がたくさんいたくらい。田中さんを都知事候補に擁立しない政党のセンスが理解できないね。

確かに遊説中も「都知事選に出てほしかつた」という声をかけてくる人は多かつた。(田中)



田中 過分な評価で、こそばゆいよ(苦笑)。自分で言うのも何だけど、確かに遊説中も「都知事選に出てほしかつた」という声をかけてくる人は多かつた。

ただね、知事部局に加えて警察、消防、教員、交通、上下水道と16万人を超える職員で構成される東京都庁は、ある意味では霞が関以上に堅固な官僚組織で、それをたつた1人の知事が仕切るのは至難の業なのも現実。しかも公選制の23特別区の区長や39市町村長も権限を持っている。まあ、冬季五輪後の長野県が財政再建団体転落寸前に陥つていたから県民は僕を選んだとも言えるし、その危機的状態だったから「脱ダム」宣言をはじめとする様々な変革を行えたとも言えるし、そういう巡り合わせの僕なのかもしれないね。

が、それにしても主要3候補も選挙戦中盤になつてドンダリの背比べというかモグラ叩きの様相を呈してきた。

浅田 劇場政治はこりこりだから実務家をつて言うけど、増田寛也の実務家としての実績は田中さんが国会で追及したとおり。結局、自民党とその都議会議員団にとつて御しやすい候補つてだけ。

田中 小池百合子も核武装の検討を公言し、「ニューヨークタイムズ」やイギリスの「エコノミスト」誌がナシヨナリスト集団と報じる日本会議の主要メンバーでもあるからね。オリンピックの準備も迷走し続けているし、誰がなつても問題山積だ。

### 国民投票で離脱派が勝利。 ヨーロッパの行く末は？

浅田 イギリスの国民投票で、EU離脱派がまさかの勝利。イギリスにとつてもEUにとつても大変なことに。

英首相のデイヴィッド・キャメロンは頭がいかほど軽率なお坊ちゃんか、1期半ばの2013年に「再び政権を担当させてもらえれば国民投票を実施する」として約束しちゃった。離脱を求める独立党が勢力を伸ばし、自らの保守党内にも離脱派が増える中、この約束で独立党に票が流れるのを防ぎ、保守党内をまとめよう、そういう状況でEUと交渉すればイギリスに有利な改革案を引き出せるだろうし、それを踏まえて国民投票に臨めば勝てるだろう、と。世界を吹き荒れるポピュリストイックな自国第一主義の風を甘く見たんだね。ちなみに、15年の選挙直前に「首相に再選されても3期目は目指さない」と宣言したのも、常識的に見て、せっかく再選された2期目の彼の政治力を弱める結果になったと思うな。

他方、保守党でロンドン市長を2期務めたあと下院議員に戻ったボリス・ジョンソンが今年になって離脱派に鞍替えし、国民投票でも離脱派をリード、後継首相候補に浮上した。機会主義的なポピュリストとしか言いようがない。独立党のナイジェル・ファラージ党首は「これこそわれわれの独立記念日だ」と叫んでたけど、スコットランドや北アイルランドは残留派が多数だったんで、イギリスが離脱するならイギリスからの独立を求めて国民投票に訴えることになる、そっちの独立問題のほうが深刻でしょう。

そう思ったら、EUに支払ってる巨額のカネを国内の社会福祉に回せるっていう離脱派の主張が大嘘だったと発覚、ジョンソンは保守党党首選出馬を見送り、ファラージも独立党党首を辞任。まさか離脱派が勝つことはないと思っただけで人取りの火遊びを楽しんでたら、家に火がついて大慌て



一言で言えばグローバル資本主義と多国籍エリートに対する大衆の反逆でしょう。(浅田)

で逃げ出したってとこかな。結局、テリーザ・メイが後継首相になったものの、残留派だった彼女が離脱交渉を担当する羽目に陥るつても皮肉だね。交渉が2年でまともるかどうかわからないし、結局ある程度の妥協の元にEUに残留する——あるいはそれに限りなく近い形になる可能性もなはないと思う。

田中 グレターター・ロンドン地域が投票時に豪雨だった中での結果だった。昨年末にストラスブールの欧州議会での演説で「君たちはEU市民無視で、既得権益の上にあぐらをかいている官僚そのものだ」と、会議は踊る。状態に警告を發した教皇フランシスコが今回の結果を受けて、「EU加盟国である一方で、自分の文化を保持したい」と国家が言えるような形を模索しなければならぬ。EUが当初の力を取り戻すには、結びつきを緩め、加盟国に独立心と自由を与える別の形の連合を考える必要がある」と述べたのは鋭いと思う。

### 浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。  
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。  
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。



いで自由に行き来できるボーダレスなEUと、それぞれの地域の料理や風習、文化や言語、信仰を尊重し合うボーダーフルフボーダーコンシャスなEU。そのアウフヘーベンを目指す、緩やかな国家連合が設立当初の理念だったのに、ココロニゼーションと呼ばれるココ・コラに象徴される多国籍企業が全世界の流通市場で植民地化を進めたのと同様、いつの間にか経済的新自由主義を旧・東欧諸国に拡大するのが目的となってしまう。それは一握りの経営者や政治家、官僚にとっては都合の良い欧州統一市場だけ、物価の高騰に直面する新規加盟国のみならず英仏独をはじめとする多くの国々の国民にとっても失業の不安を招き、ネーションステイト＝国民国家としての主権の喪失につながる負の側面を否定できない。イタリアでは25歳以下の40パーセントが仕事を持っていない現実を教皇が指摘しているようにね。それが、EU加盟後もユーロでなくスターリング・ポンドを通貨としているイギリスでも僅差で離脱が上

回った理由だと思ふよ。  
浅田 そう、この国民投票の結果は一言で言えばグローバル資本主義と多国籍エリートに対する大衆の反逆でしょう。EUも近年はアメリカ流の新自由主義に染まり、経済危機に際しても緊縮財政一本槍。そのくせ、ブリュッセルのEU官僚が何から何まで細かく規制しようとする。欧州議会はまだ十分に機能してない。EUが根本的な改革をやらなきゃ、イギリスに端を発して離脱のドミノ倒しが続くことにもなりかねないね。現に、フランス国民戦線のマリヌ・ル・ペン党首が国民投票の結果を「民主主義の輝かしいレクソン」と称え、自国でも国民投票を要求するなど、反EUポピュリズムの風が強まっている。さらには、アメリカ大統領選挙を戦うドナルド・トランプも、「11月にはアメリカでも同じことが起こるだろう」と。実はEUの問題はギリシヤ危機で「Grexit(グレグジット/ギリシヤのEU離脱)」が云々された頃から議論されてたんで、「Brexit(ブレグジット/イギリスのEU離脱)」でそれが全面化した今こそ根本的なEU改革のチャンスでもあると思うね。  
田中 こうした中、そのEUへの加盟交渉が採られているトルコで「クレーダター」が未遂に終わり、大統領のレジエップ・タイイップ・エルドアンは、軍や司法関係者、教員らを5万人規模で粛清し、テレビ・ラジオ24局の免許を取り消した。あまりにも周到な対応はロシアのウラジミール・プーチンを連想させるので、事前に察知していた「クレーダター」計画をあえて放置して、逆に権力基盤の強化に用いたのではと勘繰られているね。このあたりは次回、話すとしてようか。